

V 現職教育

1. 現職教育計画方針

石川県教育委員会及び教員総合研修センター、郡市教育課程研究会、公開研究会、校内研究会・研修会など研修の機会を積極的に活用し、自己の研鑽に努める。10月に予定している県国語教育研究会での授業公開を研修の機会ととらえ、国語科の授業改善に向け更なる研鑽を積む。

2. 学校研究

(1) 研究主題・副主題

**自ら学び、思いや考えを伝え合う児童の育成
～ 主体的・協働的に学び合う授業を通して～**

(2) 設定の理由

本校では、これまで「自ら考え、互いに伝え合う子の育成」を研究主題として、算数科を中心に授業研究に取り組んできた。児童一人一人が自分の考えをもち交流することで新たな考えや価値に気づき、自分の考えを再構築することができると考え、研究を進めてきている。しかし、ここ数年は学力調査の結果等より「読む力」の不足が課題となり、昨年度からは研究教科を国語科とし、実践を通して「授業改善」に取り組んできた。

「読む力」の向上をねらっていることから、昨年度は、「読むこと」単元に絞って授業実践してきた。その際に、単元を通して子ども達にどのような力を付けたいのかをまず明らかにし、子ども達が主体的に学習に向かうための単元づくりを意識した。付けたい力を明らかにし、そのための言語活動を設定すること、単元を通して付けたい力を示す第一次の1時の在り方など、一年間を通して細かなステップで研修を重ね、国語科の授業づくりについて全職員で理解を深めてきた。

今年度は、研究主題を「自ら学び、思いや考えを伝え合う児童の育成」に変更し、副主題「主体的・協働的に学び合う授業を通して」については、継続することとした。「読むこと」の授業では、作品を自分自身に引き寄せて読むという読み方が増え、自分の「思い」を、根拠を明確にしながらか交流し合う活動が多い。そのため、主題を上記のように変更した。引き続き、研究の重点は①「考えをもてるような手立ての工夫」、②「学びを深め合うための工夫」とする。まず、自分の考えをもつ場や手立てを工夫し、一人一人が自分の考えを確実にもてるような授業づくりをする。次に、自分の思いや考えを伝え深めるための協働的な学びができるよう、目的に応じた交流の仕方を工夫することを追究していく。児童が主体的に問題解決に取り組み、対話を通して一人一人の思考が高まり、「わかる・できる」経験を実感すると共に、深い学びとなる授業づくりを目指していきたい。

(3) 児童に付けたい力（資質・能力）

今年度の研究を通して、児童に付けたい力として以下の3点を設定する。

- | |
|---|
| ① 言葉に目を付けて読む力（知識・技能）
② 根拠をもとに筋道を立てて、思考・表現する力（思考力・判断力・表現力：考えの形成）
③ 思いや考えを伝え合う力（思考力・判断力・表現力：共有） |
|---|

① について

語彙を増やし言語感覚を養うとともに、言葉を大切に読む力を付ける。

② について

根拠を明確にし、自分の思いや考えをもちながら読む力を付ける。

③ について

互いの思いや考えを共有し、自分の考えをはっきりさせたり、広げたり、深めたりしながら読む力を付ける。

(4) めざす児童の姿



(5) 研究の重点

考えを深めるための指導の工夫

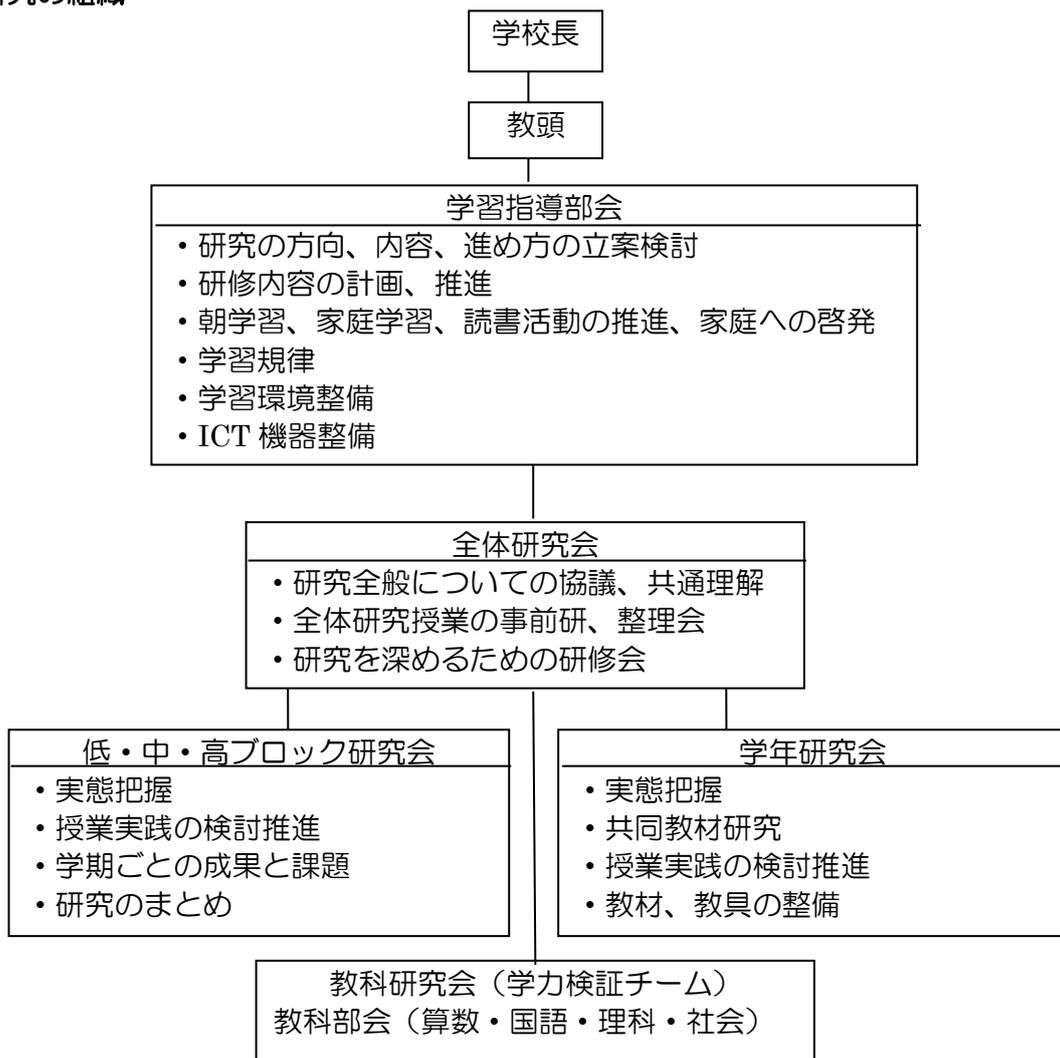
大根布授業スタイル「①つかむ」「②考える」「③深める」「④まとめる・ふりかえる」の中の主に②と③について重点的に取り組む。

<国語科の1時間の授業の流れ(モデル)>

段階	授業の流れ	指導の工夫(全職員で意識すること)
① つかむ ・課題の把握 ・本時の見通し	・単元計画をもとに、または前時をふり返って本時のめあてをもつ ・本時の交流などの見通しをもつ ※単元全体やゴールを常に意識しながら、本時の目的をもつ	★ 焦点化 ・ねらいの明確化 ・学習計画などの単元のゴールや単元全体の見通し
② 考える ・自力解決 ・ペア交流	・自分の力で思考・判断・表現する ※ノート作りの力、語彙の獲得、表現力の育成	◇ 考えをもてるような手立ての工夫 ★ スモールステップ化 ・ワークシート ノート ★ 視覚化 ・構造化された板書 ・ネームプレート ・既習揭示 ・学習計画の揭示
③ 深める ・ペアやグループ交流 ・全体交流	・学び合い深め合う(ペアやグループ交流)(全体交流) ※全文揭示や全文シートの活用・机の配置 ※自身の変容を認識する	◇ 学びを深め合うための工夫 ★ 分かりやすく伝える工夫 ・巻き込み発言(相手や場面を意識した話し合い) ・大根布ワード ・ステップアップ表の活用 ・ノートやワークシートを活用した話し合い ・動作化 ・付箋の利用

		<p>☆目的を明確にしたペア・グループ活動 ア 考えをはっきりさせる イ 考えを広げる（赤付箋） ウ 考えを深める（青付箋）</p> <p>☆教師による問い返し（深め発問） つなぐ ・〇〇さんは、どの言葉から考えたと思いますか？ もどす ・今、何について考えたか、説明できる人？ 比べて返す ・〇〇さんの意見と◇◇さんの意見、どこが違っていましたか？ ゆさぶる（違う角度から考えさせる） ・本当にそう言えるの？ ・～の場合はどうですか？</p>
④ まとめる ふり返る	・今日の学習で考えたこと、分かったことをまとめる ※単元全体へ返す・次時への見通しをもつ	<p>☆変容を認識し次時の見通しをもつためのふり返り ア <u>はじめは～だったけど</u>、～（変容） イ <u>～さんのおかげで</u>、～（発見） ウ <u>次は～について</u>、～（見通し）</p>

(6) 研究の組織



(7) 研究の方法

- ① 各部会で研究の重点を具現化するための手立てを考え、実践の中で主題に迫る指導を追究していく。
- ② 研究授業を通して、検証を行う。
 - ・ 1人1回研究授業を行う。級外は、担当教科で行う。
 - ・ 年間3回の全体研究授業（低・中・高ブロック各1名）を設定し、共通理解を深めながら研究を進める。全体研以外をブロック研とする。
 - ・ 研究授業の事前研・授業整理会は各ブロックを中心に行う。所属するブロック以外の研究授業、整理会も積極的に参加し、感想を伝え合う。
 - ・ 全体研究会、ブロック研究会においては積極的に外部講師を招聘し研修を深める。
 - ・ 全体研究授業の事前研では、指導案検討、模擬授業を行い、全員で授業づくりを考える。付きたい力をつけるための交流の仕方、児童の発言のつながり、資料提示・支援のタイミング、課題や発問の妥当性、効果的な板書等について協議検討する。
 - ・ 授業整理会では、研究主題、副主題にそった協議になるようにし、児童の変容をもとに授業改善に努める。
- ③ 相互に授業を参観し合い、授業力向上に努める。
- ④ 外部講師を招聘した研修会を行い、指導力向上を目指す。
- ⑤ 実践や取組の成果を以下の方法で検証し、よりよい実践に向けて改善を図る。
 - ・ 学力、学習状況調査
 - ・ 児童アンケートによる意識調査
 - ・ めざす児童の姿と児童の実態の分析
 - ・ 授業での発言や行動の観察
 - ・ 児童のノート記述

(8) 研究主題に迫るための方策

授業力向上に向けた取組

① 国語科の授業づくり

単元で付きたい力をはっきりさせ、その力を付けるための言語活動を設定する。導入は単元全体を見通すものにし、付きたい力を教師も児童も明確にもてる導入にする。教科書教材を読む際には、場面ごと・段落ごとに読むのではなく、全体を通して読む。また、学習過程を掲示し、児童と共に見通しをもって学習を展開する。並行読書や調べ活動も加え、活用する力も意識した授業づくりを行う。

② 大根布授業スタイル（全教科で）

つかむ→考える（自己解決）→深める（考えの交流）→まとめる・ふり返るという4つの学習過程で問題解決型学習に取り組む。タイムマネジメントを意識し、45分を見通した授業設計を考えることで授業の構造化を図る。

③ 授業研究の充実

(ア) 模擬授業

全体研究授業の事前研では、指導案検討に加えて、模擬授業を実施する。ねらいや児童の思考の流れに沿った学習課題の吟味、資料提示のタイミング、発問の妥当性、児童の考えの取り上げ方、効果的な板書などについて児童の反応を予想しながら問題点を協議する。

(イ) グループワーク授業整理会

付箋を活用し、可視化を図りながら、重点ごとに視点を明確にして成果と課題、改善策を協議する。

④授業改善に向けての取組

学期毎の授業改善自己目標シートを用い学期毎に目標を見直すとともに、週案上の1時間をマーカー授業として位置づけ自己評価し、研究の重点を意識しながら自己目標の検証を行う。

⑤相互授業参観

日常的な授業研究を進められるように、相互授業参観週間を設定する。全員参加の授業、理解定着、板書の工夫、児童に対する教師の働きかけ、他学年の学習内容や系統性などを知り、よりよい指導法を学ぶ機会とする。

⑥OJTの充実

学年会で教材研究の時間を確保するとともに、日常的に学年の教材研究を大切にしながら、教師の困り感を共有したり、すぐに授業で実践したりできるようにOJTの研修の機会を設ける。若手教職員の要望を反映した、授業力向上・学力向上のための内容などを計画的に実施する。

学習を支える基盤づくりの取組

① 「ねぶっ子 授業の8つのお約束」をもとにした学習規律の徹底

学習の準備、姿勢、話し方、聞き方等、学習規律を8つの項目に焦点化した「授業の8つのお約束」をもとに指導を行う。この約束は短冊状で教室に掲示し、児童の状況を見ながら、重点的に取り組む短期目標を設定していく。学期ごとにふり返りを行い、おおむね達成できていると判断した項目には、短冊に花丸カードを貼っていく。

② 言語力の育成 「話す・聞く・書くステップアップ表」

相手にわかりやすく、相手を説得できるように話すには、根拠を明確にする必要がある。「話す聞く書くステップ表」をいつでも意識できるように全教室に掲示し、友だちの意見につなげる話型や考え・根拠・理由の表現の仕方をわかりやすく示し、相手意識をもった話し合いができるようにする。また、ステップアップ表を児童が手元に持ち、自分がどこまでできるようになったかを確認できるようにする。

③ 基礎・基本の定着

(ア) 漢字検定

各学年で習う漢字の習得を、学校全体で徹底して行うために、ねぶっ子漢字検定に取り組む。校長が作成・採点・集計・表彰を行い、全学年共通で取り組む。また、「早寝・早起き・家庭学習」の取組とタイアップすることで、家庭と連携して行う。

(イ) 朝学習（読みチャレ）

朝学習は、基礎・基本の定着に繋がる大切な時間と捉え、15分間集中して学習することを徹底する。月曜日は読書、火・金曜日は漢字や計算に取り組み、水・木曜日は「長文に慣れること」、「時事的な問題に興味を持たせること」、「語彙力アップ」、「問いに正対する解答の仕方の定着」をねらい、読みチャレに取り組む。児童の読解力をつけるため、継続して取り組む。

(ウ) パワーアップタイム

長文読解や弱点克服のため、11月と2月、3月をパワーアップ月間として、3・4・5年を中心に活用問題に取り組む時間を設定する。

(エ) 家庭学習の習慣化

年度当初、家庭と児童向けに「家庭学習のてびき」を配布する。児童には家庭学習の取り組み方や内容の参考にさせ、保護者に対しては協力を依頼し家庭での支援に活かしてもらおう。学年×10分の学習時間の定着を目指して、学習時間に見合うような課題を工夫していく。

③ 読書活動の推進

読書量を増やすために学年ごとに冊数目標を設定したり、読書の幅を広げるために読んでほしい本を必読書として選定したりする。国語科の授業でも、並行読書を進めたり、調べ活動で図書館利用の機会を増やしたりするなど、工夫する。さらに、週1回の朝読書、図書ボランティアや教師、英語指導員による読み聞かせ、お話し会なども行い、読書に関する関心を喚起する。

読んだ本の履歴がわかる「読書カード」も活用しながら、読書の質を高めていく。また、4月23日のいしかわ学校読書の日に合わせて、毎月23日に読書を家庭学習の課題にして家庭読書も推進していく。

(9) 研究授業計画

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
低			山本千	廣田		山本美	高倉		野村
中	松井	巽林		笹野		板井	服部		松下
高			柚木		河内	城崎 室谷	岡田		